

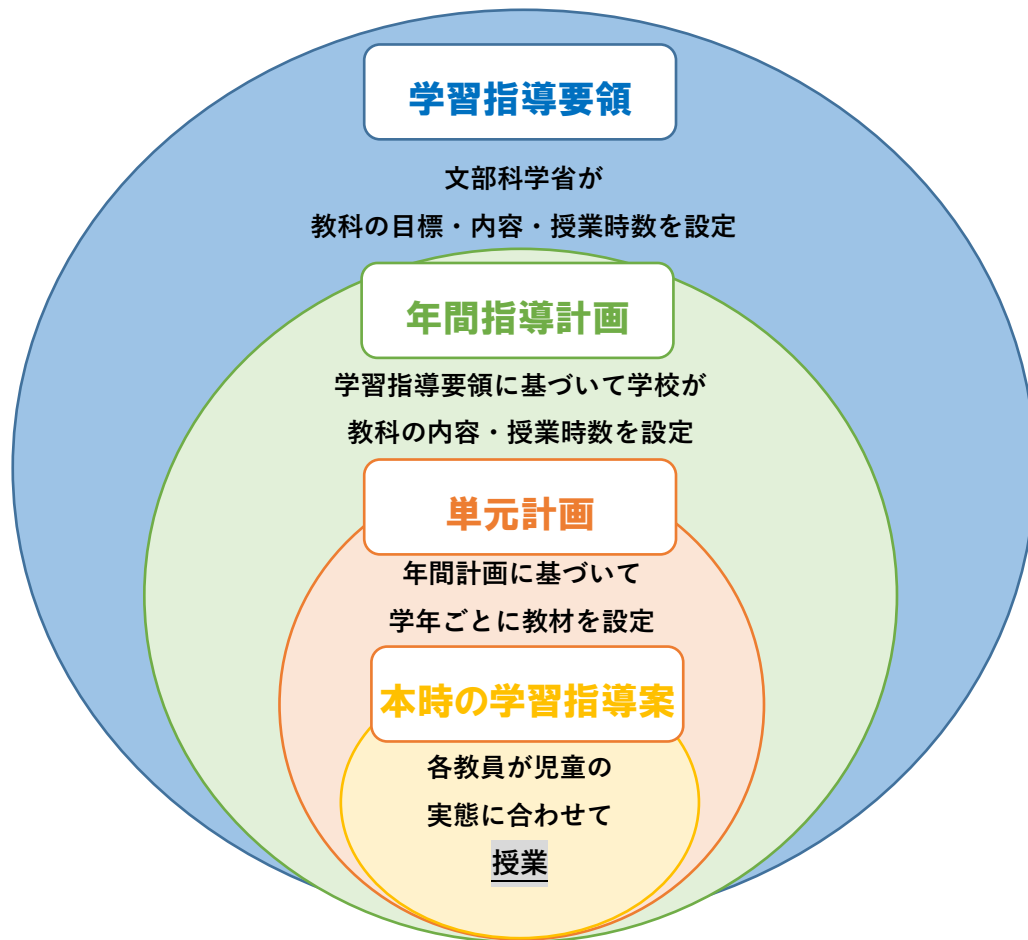
～はじめに、社会で活躍する皆さんに、学校へ力を貸していただく上で知っておいて欲しいこと～

### 学校での授業は、どのように作られているのでしょうか？

目標は、児童・生徒が教科書の問題を解けるようになればよいのでしょうか？いえ、残念ながら違います。  
内容や時間数は、各教員が好きな内容を好きにだけ教えているのでしょうか？いえ、やはりこれも違います。

学校での授業は、教員の考えのみで作られるものではなく、文部科学省が示す学習指導要領に基づいて実施されています。学習指導要領は、**どの地域でも基準どおりの教育が受けられる**よう定められた、一種の法律です。

学校の教員は、「学習指導要領」を基に、児童・生徒それぞれの実態に合わせて「年間指導計画」→「単元計画（教材や学習のまとめり）」→「本時の学習指導案（1時間ずつの進め方）」と順に作成し、授業を行っています。



最後に作成する本時の学習指導案は、1時間（45分）の**授業の流れを具体的に表した計画案**です。学習指導案では、まず「**45分で児童に何を身に付けさせたいか**」という目標を設定します。目標を設定できたら、その達成のために必要な児童・生徒の学習活動の積み重ねを決めていきます。そして、学習活動の場面ごとに「どのような言葉がけや手だてが必要か？」や「その場面での小さな目標は？」と考え、ポイントとなる場面では、評価を行うために活動している児童・生徒を観察します。このように、学校の授業は「学習指導要領という大枠を踏まえた学習指導案」の作成を通じて作られています。

社会で活躍する皆さんには、**学校の教員たちが児童・生徒の実態を毎日観察して考えた年間指導計画や単元計画を尊重し**、しかしその一部、**例えば4～8分くらいの学習活動（意外と長く感じます！）で皆さんだからこそ伝えられる内容を盛り込み、児童に刺激を与え**ながら力を貸していただきたいと思います。

では、上記を踏まえて、ある授業の具体的な学習指導案を見てみましょう！  
 (まずは吹き出しの箇所を中心に、ざっと見渡してみてください。)

小学校3年生：単元(Unit)【**すきなものをつたえよう**】全4回の単元で2回目の授業の**学習指導案** (例)

**目標**

外来語を通して英語の音声やリズムなど日本語との違いに気づくとともに、  
 好みを表す表現に慣れ親しむ

時間	児童の活動	指導者の活動 「◎」は評価ポイント<評価の方法>	準備する物
2分	・挨拶をする。 I'm～. How are you? 歌「Hello Song」	・全体に挨拶をして、個別にも挨拶をする。 ・児童と一緒に歌う (前の授業で習った歌など)	音声教材
5分	シャッフル・クイズ ・指導者とともに色を確認する。 ・指導者が指したカードが何色かを答える。	・自身や児童が着ている服、前時に児童が描いた虹などの色を取り上げて、児童とともに色を確認しながら、その色の教師カード(色)を黒板に掲示していく。 Look. This is red. This is...? Yes, that's right. This is blue.	教師用カード(色)

外国語活動は、音声教材や掲示物を活用し、歌唱や各種活動を行いながら「英語に親しむ」授業です。  
 (ドリルや問題演習、「教員が黒板に書いた文章をノートに写す」等の場面はありません。)

シャッフル・クイズの進め方

- ・黒板に“教師用カード(色)”を掲示して、シャッフル・クイズをすることを告げる。
- ・児童と教師が色を言いながら、教師が順に色カードを裏返す。児童に入れ替えた順が分かるよう2、3回入れ替える。1枚のカードを指し、What's color?と児童に尋ねる。  
児童の答えに応じてカードを表にし、色を確認する。
- ・この活動を通し、児童に「色の言い方」を何度も聞かせたり、言わせたりして、慣れ親しませるとともに、Do you like～?と尋ね、Yes, I do. No, I don't と答えるよう促す。  
～教師からの投げかける言葉の例～  
教師 「Let's play the Shuffle Game. Look at the board.」  
「This is ... ? Yes, this is pink!! This is...? Right. This is blue!!」  
「Watch the cards carefully. What color is this?」

5分	テキスト P.**【Let's Listen 1】 を開く。 ↓ 音声教材を使い、「誰が何色を好きか」を聞きとって、テキストの絵を線で結ぶ	・テキストの登場人物が何色が好きかを予想させる。 ・予想を確かめるために音声を聞かせる。 ～音声教材(セリフ)～ 1 Hello! I'm Takeru. I like yellow. 2 Hi! I'm Sayo. I like Blue. 3 Hello! My name is Robert. I like red	テキスト 音声教材
3分	テキスト P.**【Let's Sing1】 を開く。 ↓ 音声教材「The Rainbow Song」 に合わせて歌う	・まずは音声だけを聞かせて、児童に聞き取れた色を尋ねる。 ・児童と一緒に歌う。 ～音声教材(歌)～ Red and yellow and pink and green, purple and orange and blue, I can sing a rainbow, sing a rainbow, sing a rainbow, too.	テキスト 音声教材

スムーズに  
スイッチオン!

<p>5分</p>	<p>活動「先生の好きなものと、そうでないものを知ろう。」</p> <p>～ 抑えるポイント・目標 ～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が、教員の好きなもの、そうでないものについて話を聞く。</li> <li>・児童が「I like～」と「I don't like～」の表現に出会い、その意味を理解する。</li> </ul>	<p><b>A</b> あなたが過去の仕事や生活の中で経験したことを生かして、児童に「I like～」 「I don't like～」を伝える活動を考えてください。</p>	
<p>7分</p>	<p>テキスト P.** 【Let's Listen 2】を開く。</p> <p>↓</p> <p>音声教材を使い、登場人物の好きなスポーツとそうでないスポーツの番号をメモする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の好きなスポーツや、そうでないスポーツを聞き取って、番号をメモするよう促す。</li> <li>↓</li> <li>その際、いきなり音声を聞かせて活動（メモ）させない。</li> <li>最初に、教師用カード（スポーツ）を提示し、そのスポーツを表す単語（「soccer」、「baseball」など）を理解させる。</li> <li>その上で、テキストに登場する登場人物の好きなスポーツを予想させつつ音声を聞き、自身の予想があっているかを確認するよう指導する。</li> </ul> <p>～教師からの投げかける言葉の例～</p> <p>教師 「Look at your textbook. This is 'soccer'. Do you like soccer? This is 'baseball'。」</p> <p>～音声教材（セリフ）～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Hi! I'm Takeru. I like soccer. I don't like baseball.</li> <li>2 Hello! My name is Sayo. I like basketball. I don't like swimming.</li> <li>3 Hello! I'm Emily. I like swimming. I don't like dodgeball.</li> </ol> <p>◎好みを表す表現を聞き取れている。＜行動やテキストへの書き込み、授業最後に書く「振り返りカード」で確認＞</p>	<p>テキスト 音声教材 教師用カード（スポーツ）</p>
<p>3分</p>	<p>テキスト P.** 【Let's Chant】を開く。</p> <p>↓</p> <p>音声教材「“I like soccer” スポーツ編」を使い、流れる音声に合わせてチャンツを言う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツの言い方を再度聞かせる。</li> <li>・児童にチャンツを繰り返させながら、音声の違いに等に気付かせる。</li> <li>↓</li> <li>児童に繰り返させる際は、教員も一緒にチャンツを言う。</li> <li>音声だけでは特徴をつかみにくい児童に対しても、語のイントネーションを手の上下によって示すなどして、音声の違いに気付かせる。</li> </ul> <p>～音声教材 “I like soccer”（スポーツ編）～</p> <p>I like soccer. I like dodgeball. Ummm, I don't like baseball. I like tennis. I like basketball. Ummm, I don't like swimming.</p> <p>◎英語の音声やリズムなど、日本語との違いに気付いている。＜行動や、授業最後に書く「振り返りカード」で確認＞</p>	<p>テキスト 音声教材</p>

活動や指導を円滑に進めるための注意点をあらかじめ検討し、書き出しておきます。

「チャンツ」とは、英語の文章を一定のリズムに乗せて歌うものです。

8分	<div data-bbox="220 53 549 98" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">カード・デスティニー・ゲーム</div> <div data-bbox="220 152 1353 770" style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <div data-bbox="236 174 676 210" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">カード・デスティニー・ゲームの進め方</div> <p>ペアで行う。</p> <p>児童用カード（色、スポーツ）1セット分を2人で適当に分けて持つ。</p> <p>教員も同じカードを持ち、その中から1枚引いて、“Soccer!!”等と言う。</p> <p>教員が告げたカードを持っている児童は、「I like～」又は「I don't like～」と自分の気持ちを発声しながらカードを机に置く。手持ちのカードがなくなったら上がり。</p> <p>～教師からの投げかける言葉の例～</p> <p>教師「Let's play the Card Destiny Game!! Are you ready?</p> <p>The first card is “red”! Who has the ‘red’card?</p> <p>Please say, ‘I like red’ or ‘I don’t like red’</p> <p>and put the ‘red’card down on your desk.」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カード・デスティニー・ゲームをすることを告げる。</li> </ul> <p>◎好みを表す表現を聞いたり発声したりしている。＜行動や、授業最後に書く「振り返りカード」で確認＞</p>	児童用カード（色、スポーツ）
5分	<p>本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。</p> <div data-bbox="124 1008 529 1182" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #f9cb9c;"> <p>目標を達成できていたかを測るため、重要な時間です。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の英語を使おうとする態度について、よかったところを称賛する。</li> </ul> <div data-bbox="740 918 1270 1182" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #f9cb9c;"> <p>特に「英語を使おうとする態度」はそれだけで素晴らしいものです。必ず褒めて伸ばしてあげましょう！</p> </div>	振り返りカード
2分	<div data-bbox="207 1214 434 1249" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">歌「Goodbye song」</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と一緒に歌う（前の授業で習った歌など）。</li> <li>・挨拶をする。</li> </ul>	音声教材